

平成17年度 事業報告

(2005年4月1日～2006年3月31日)

本年度における会員現況と主な事業内容を以下項目別に報告する。

1. 会員現況

会員種別	2005年度			参 考	
	2005. 4. 1 現在数 (A)	2006. 3.31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2005. 3.31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	17	16	1	17	1
終身会員	102	101	1	97	4
正会員	3,622	3,513	109	3,582	69
学生会員	853	903	50	877	26
賛助会員	221社 (380口)	209社 (366口)	12社 (14口)	217社 (376口)	8社 (10口)
特殊会員	138社 (151口)	125社 (138口)	13社 (13口)	136社 (149口)	11社 (11口)

2. 定款・規則等の制定・改正

- | | |
|----------------------------------|----------------|
| (1) 日米ジョイントミーティング開催積立基金に関する規則の制定 | (2005. 4. 27) |
| (2) 英文校閲積立基金に関する規則の制定 | (") |
| (3) 独創研究奨励賞 板倉記念積立基金に関する規則の制定 | (") |
| (4) 役員の報酬・退職金に関する規則の制定 | (") |
| (5) 会計処理規則の制定 | (") |
| (6) 著作権規則の制定 | (") |
| (7) 独創研究奨励賞 板倉記念積立基金に関する規則の改正 | (2005. 9. 27) |
| (8) 日本音響学会メーリングリスト運用指針の制定 | (2005. 10. 24) |
| (9) 学術委員会規則の制定 | (2005. 11. 27) |

3. 機関誌の刊行

- (1) 日本音響学会誌
本期間は毎月1日(1号は12月25日)を発行日とし、次の12冊を刊行した。

61巻4号～62巻3号(2005年4月～2006年3月)

	巻		61巻								62巻			計	
	号		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3
本文ページ			66	58	56	66	84	62	52	62	62	88	58	148	862
主 な 論 文 ・ 記 事	巻頭言				2							2			4
	音叉		2			2			2						6
	論文		40 (4)	7 (1)	25 (3)	12 (2)	17 (2)	17 (2)	26 (3)	24 (3)	25 (3)	39 (4)	26 (3)	142 (16)	400 (46)
	技術報告			10 (1)	6 (1)										16 (2)
	寄書					3 (1)									3 (1)
特別講演						6						7		13	
解説(小特集を含む)		18 (3)	35 (7)	18 (3)	42 (7)	19 (3)	39 (6)	19 (3)	32 (6)	20 (3)	43 (7)	19 (3)	0 (0)	304 (51)	

主な論文記事	会議報告 (シンポジウム報告)									8 (3)				8 (3)	
	研究発表会報告					1						1		2	
	選奨記事					8								8	
	総会記事					8								8	
	書評	1			1									2	
	研究会発表論文一覧					21								21	
	博士論文紹介								2					2	
	コーヒープレーク	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	61巻総目次									4					4
	学会記事等	2	3	2	3	1	3		3	2	1	2	2	2	24
	投稿規定										19				19
編集後記	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
会告	17	17	25	24	15	65	17	19	19	13	55	11		297	
広告	15	15	13	15	15	15	15	17	15	12	17	15		179	
発行部数	5300	5300	5300	5300	5300	5300	5350	5350	5350	5300	5250	5250			
小特集タイトル		1		2		3		4		5					

注 (1) 欄中の () 内数値は編数。

(2) 会告の内容は、研究会開催案内、音響関係国内並びに国際会議、その他周知記事である。

- 1 音と映像で体験できる聴覚の不思議な世界
- 2 バイノーラル技術による立体音響再生の動向
- 3 音声学・音韻論の過去・現在・未来
- 4 音響センシングが拓げる測定技術の世界 - 超低周波から超音波領域まで -
- 5 様々な媒質中における波動伝搬

(2) 英文論文誌 Acoustical Science and Technology

本期間は、2005年5月、7月、9月、11月、2006年1月、3月の各1日を発行日とし次の6冊を刊行した。

なお、本論文誌に対し、日本学術振興会から前年度に引き続き科学研究費補助金が交付された。

Vol. 26 No. 3 ~ Vol. 27 No. 2 (2005年5月 ~ 2006年3月)

巻		26巻				27巻		計
号		3	4	5	6	1	2	
本文ページ		68	86	74	80	66	58	432
主な論文・記事	Paper	27 (3)	27 (3)	24 (3)	34 (4)	49 (6)	37 (4)	198 (23)
	Technical Report	4 (1)	5 (1)		12 (1)			21 (3)
	Acoustical Letter	23 (7)	41 (12)	23 (7)	21 (6)	12 (4)	16 (5)	136 (41)
	Short Note			3 (1)				3 (1)
	Review	9 (1)						9 (1)
	Invited Review			20 (3)				20 (3)
	Tutorial		9 (1)					9 (1)
	和文誌英文目次	2	2	2	2	2	2	12
	和文誌論文等内容梗概	2	2	1	2	2	2	11
	Vol.26 目次				8			8
Acoustical News	2			2			4	
発行部数		5300	5300	5300	5300	5300	5300	

注) 欄中の () 内数値は編数。

(3) 科学技術振興機構が主催する電子ジャーナル共同利用センター (J - S t a g e) のサイト (URL <http://ast.jstage.jst.go.jp/>) で、引き続いて A S T 誌 (Acoustical Science and Technology) を公開した。

4. 研究発表会の開催

(1) 春季研究発表会は、2005年3月15日、16日、17日の3日間、東京農工大学を会場として開催した。参加者実数は、1276名である。

スペシャルセッションは、今期から新たに編成した分野横断型スペシャルセッションとして3件、「ロボットと音声・音響技術 第1部ロボットの耳 - 音源探査と音環境認識技術 - (招待講演3件) 第2部ハードウェア及びソフトウェア・ロボットにおける言語理解・行動制御・言語生成(招待講演2件)」、「時間と空間のリアリティ(招待講演2件)」、「音をみる、音でみる - 最近の進歩と展望 - (招待講演4件)」のほか、単独分野で2件、「建築音響の新展開と可能性(招待講演3件)」、「娯楽による音響暴露と聴覚影響評価(招待講演3件)」で実施した。

(2) 秋季研究発表会は、2005年9月27日、28日、29日の3日間、東北大学を会場として開催した。参加者実数は、1120名である。

スペシャルセッションは、新分野(生物音響)「生物の音響信号知覚(招待講演6件)」、分野横断型「ハイデフィニション・オーディオ研究の現状と課題(招待講演5件)」、「車室内音声・音響信号処理(招待講演4件)」、「第2言語習得・基礎からビジネスモデルまで(招待講演3件)」及び「多様な発話生成をめざす音声合成技術(招待講演2件)」、「進化する圧電材料・圧電デバイス(招待講演3件)」、「なぜ音楽は心に響くのか? - 音楽への科学的アプローチの現状 - (招待講演4件)」の7テーマを実施した。

(3) ポスター賞は、春季研究発表会は4件、秋季研究発表会は6件を選定し贈呈した。

(4) 春季並びに秋季の発表分野、講演件数及び特別講演は次表のとおりである。

分野別		春季	秋季
講演件数	音声 A	83	111
	音声 B	76	104
	聴覚・音声	24	-
	聴覚	36	-
	聴覚/聴覚・音声	-	50
	電気音響	97	92
	音楽音響	18	24
	騒音・振動	36	46
	建築音響	24	66
	超音波	102	105
	水中音響	7	9
	アコースティック・イメージング	22	10
	生物音響		6
	ハイデフィニションオーディオ		5
	分野横断「車室内音響」		12
	分野横断「第2言語習得」		17
計		525	657

特別講演	演題	「生存科学」プログラムの試み - 持続・生存と共生をめざす農工の協働 -	大正昭和期の東北における音響研究
	講師	東京農工大学教授 堀尾 正靱 氏	東北大学名誉教授 城戸 健一 氏

5. 特別企画の開催

特別企画委員会（渡辺好章委員長）において実施した特別企画及び会員と意見交換をするコミュニティセッションは以下の通りである。

- (1) 2005 年春季研究発表会に併催して、「編集委員会に注文あり！」と題するコミュニティセッションを開催した。
- (2) 2005 年秋季研究発表会において、同実行委員会と共同して「音・響・楽の夕べ - 音の科学のお話とオーケストラによる - 」と題する特別企画を開催した。

6. 研究会の開催

本年度に実施した各研究会の活動概要は次表のとおりである。

研究会名	委員長 (敬称略)	開催回数	発表件数	備考
超音波	崔博坤	11	129	アコースティック・イメージング調査研究委員会との合同開催の分を含む
騒音・振動	藤本一寿	10	60	建築音響研究会、アコースティック・イメージング調査研究委員会との合同開催の分を含む
電気音響	金田豊	11	113	音声、音楽音響、聴覚研究会との合同開催の分を含む
音声	田中和世	10	195	電気音響、聴覚研究会との合同開催の分を含む
聴覚	中島祥好	10	129	音声、建築音響、電気音響との合同開催の分を含む
建築音響	大鶴徹	10	50	聴覚、音楽音響、騒音・振動研究会、アコースティック・イメージング調査研究委員会との合同開催の分を含む
音楽音響	吉川茂	8	66	電気音響、建築音響研究会との合同開催の分を含む
音響化学	酒井啓司	1	30	音波の物性と化学討論会（日本化学会と共催）
合計		71	772	

7. 国際交流

(1) 国際会議の開催・準備等

2006年11月28日から12月2日の5日間、ホノルル（アメリカ）で開催する日米音響学会ジョイントミーティングの実行委員会（古井貞熙委員長）・プログラム編成委員会において、米国側委員会とタイムスケジュール、プログラム編成方針及び運営方針等について審議・決定した。

- (2) 当学会が会員となっている ICA, I-INCE の総会等に出席し、その活動に協力した。また、西太平洋音響学会議(WESPAC)に協力した。

8. 音響規格の調査・作成

- (1) 当学会で原案作成を行った JIS に関して5年ごとの見直し作業を行った。
- (2) 音響に関する国際規格（ISO TC 43, 同/SC1, 同/SC2 及び IEC TC29 関係）の審議を日本規格協会から委託され、それぞれの専門委員会（橘秀樹委員長[ISO], 佐藤宗純委員長[IEC]）において審議し、結果をとりまとめて報告した。

9. 調査研究委員会の活動

(1) 道路交通騒音予測手法の調査研究

日本道路公団から「道路交通騒音の予測及び対策手法に関する研究」及び名古屋高速道路公社から「平成17年度道路交通騒音の予測及び対策手法に関する研究業務委託」を受託。さらに（株）環境技術研究所から「交差点部等の騒音予測法に関する研究」を受託。

道路交通騒音調査研究委員会（山本貢平委員長）が作業を実施し、その成果を委託者に報告した。

- (2) 音響教育に関する調査研究

音響教育調査研究委員会（荒井隆行委員長）において、音響教育に関する現状の調査研究及び将来の音響教育のあり方等について審議を行った。

- (3) 聴力保護に関する調査研究
聴力保護のための調査研究委員会（鈴木陽一委員長）において、欧米における聴力保護の活動状況の調査研究及び国内における啓蒙活動のあり方等について審議を行った。なお、同委員会は今年度で解散した。
- (4) アコースティック・イメージングに関する調査研究
アコースティック・イメージング調査研究委員会（蜂屋弘之委員長）において、音波を利用するイメージング、音波等の可視化技術等について調査研究及び研究発表会のアコースティックイメージングセッションのプログラム編成を行った。なお、今年度は研究会を5回開催し、35件の発表があった。
- (5) 建設工事騒音予測に関する調査研究
建設機械化協会施工技術総合研究所から「平成17年度建設工事騒音予測手法に関する調査検討業務」を受託。建設工事騒音予測調査研究委員会（橘 秀樹委員長）が作業を実施し、その成果を委託者に報告した。
- (6) ハイデフィニションオーディオに関する調査研究
ハイデフィニションオーディオ調査研究委員会（小泉宣夫委員長）において、2005年秋季研究発表会におけるスペシャルセッションを企画し、実施した。なお、同委員会は今年度で解散した。
- (7) 騒音問題に関する社会調査に関する調査研究
騒音問題に関する社会調査・調査委員会（難波精一郎委員長）において、騒音問題に関わる社会調査を実施する際の調査票様式の統一等について、国際的な動向を踏まえて検討した。なお、同委員会は今年度で解散した。

10. 選 奨

- (1) 功 績 賞
音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功績があると認められる方に贈られるもので、第29回功績賞受賞者は、板倉文忠、大谷隆彦、木村 翔の3氏に決定した。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。
- (2) 佐藤論文賞
音響学に関し学術上及び技術上貢献するところが大きい研究業績を本会会誌に発表した方に贈られるもので、学会誌60巻1号～12号、61巻1号～12号並びにAST誌 Vol. 25 No. 1～No. 6, Vol. 26 No. 1～No. 6に掲載された論文の中から優秀な論文を選び、2006年春季研究発表会選奨会場（2006年3月15日）で本賞を贈呈した。

第46回佐藤論文賞受賞論文（敬称略）

牧 勝弘（東京工業大学大学院）・赤木正人（北陸先端科学大学院大学）・廣田 薫（東京工業大学大学院）

「蝸牛神経核背側核細胞の周波数応答特性に関する神経回路モデルの提案 - トーンバースト刺激に対する応答 - 」日本音響学会誌60巻1号

梅田幹雄（長岡工業高等専門学校）・佐々木康弘（NEC）・高橋貞行（早稲田大学）

「圧電セラミックスの機械的損失の振動応力依存性」日本音響学会誌60巻8号

北村達也・本多清志・竹本浩典（ATR人間情報科学研究所）

「Individual variation of the hypopharyngeal cavities and its acoustic effects」
Acoustical Science and Technology 誌26巻1号

- (3) 粟屋 潔学術奨励賞

有為と認められる津々の研究・技術者の方に贈られるもので、2005年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者で、本賞受賞の対象者から優秀な者を選び、2006年春季研究発表会選奨会場(2006年3月15日)で本賞を贈呈した。

第23回栗屋 潔学術奨励賞受賞者(敬称略)

ア. 2005年春季研究発表会

大嶋拓也(新潟大学)

「角柱列状空力音源の物体間相関に対する物体間隔の影響」

奥村玲子(NHK放送技術研究所)

「前方奥行き方向に複数のスピーカを設置した場合の合成音像の距離感(その2)
- 部屋の残響の効果 - 」

水町光徳(九州工業大学)

「Particle filter を用いた相互相関に基づく信号到来方向推定法」

イ. 2005年秋季研究発表会

全炳河(名古屋工業大学)

「トラジェクトリHMMの制約付き最尤線形回帰による話者適応」

富来礼次(大分大学)

「有限要素法による弾性板を有する室内音場の拡散性に関する研究」

横田考俊((財)小林理学研究所)

「FDTD法とPE法を組み合わせた屋外音響伝搬の数値解析
- 風の影響に関するモデル解析 - 」

(4) 独創研究奨励賞 板倉記念

音声処理に関する独創的な研究を行った若手会員の方に贈られるもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2006年春季研究発表会選奨会場(2006年3月15日)で本賞を贈呈した。

第1回独創研究奨励賞 板倉記念 受賞者(敬称略)

高谷智哉(奈良先端科学技術大学院大学)

「Single-Input Multiple-Output モデルに基づく独立成分分析を用いた高品質ブラインド音源分離の研究」

廣谷定男(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)

「統計的音声生成モデルを用いた音声からの調音運動の逆推定法の研究」

渡部晋治(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)

「Bayes 的枠組みによる音声認識の研究」

(5) 技術開発賞

音響に関する工業技術の進歩発展に特に貢献したと認められる本会賛助会員の代表者、賛助会員所属の個人、グループに贈られるもので、公募により推薦された候補の中から優秀なものを選んだ。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。

第14回技術開発賞受賞者(敬称略)

日本電信電話(株)/NTTアドバンステクノロジー(株)

「IP電話会議装置MB-1000の開発」

小林和則, 日和崎裕介, 大室 伸, 森 岳至, 島内末廣, 羽田陽一, 片岡章俊(NTTサイバースペース研究所), 中山圭一, 阿部匡伸(NTT東日本), 入島 勉, 大畑博敬(NTT西日本), 阪内澄宇(NTTアドバンステクノロジー(株))

(株)フェイス

「携帯電話における「着信メロディ」配信技術の開発」

平澤 創

三菱重工業(株)高砂研究所

「アクティブソフトエッジ遮音壁」

大西慶三, 西村正治, 早川数良, 寺西 進, 齋藤 卓(三菱重工業高砂研究所), 大西博文, 並河良治, 上坂克己, 木村健治(国土交通省国土技術政策総合研究所), 新 一真, 藤目正敏(国土交通省近畿地方整備局)

(株)村田製作所

「良好な温度特性を持つUS・PCS用弾性表面波デュプレクサの開発・実用化」

中尾武志, 西山健次, 高田英一, 三村昌和, 門田道雄, 小村知久, 谷口典生, 長谷川正幸(株)村田製作所, 坂野 究, 坂口健二, 木谷 務((株)金沢村田製作所)

1 1 . 講習会, 講演会の開催

(1) 講習会(敬称略)

事業委員会(守谷建弘委員長)が今年度を実施した講習会及び技術セミナーは以下のとおりである。

ア. 「強力超音波の基礎と応用」(第87回技術講習会)

期 日; 2005年7月4日 会場; 全国家電会館

講 師; 中村健太郎(東京工業大学), 渡辺裕二(拓殖大学), 山森春男(本多電子)

受講者数; 55名

イ. 「音源定位と音源分離の基礎」(第88回技術講習会)

期 日; 2005年7月7日~8日 会場; 全国家電会館

講 師; 浅野 太(産業技術総合研究所)

受講者数; 63名

ウ. 「スペクトル解析と情報計測の基礎」(第89回技術講習会)

期 日; 2005年7月21日~22日 会場; 全国家電会館

講 師; 金井 浩(東北大学)

受講者数; 30名

エ. 「道路交通騒音の予測モデル“ASJ RTN-Model 2003”の基礎と応用」
(第13回音響技術セミナー)

期 日; 2005年7月27日 会場; 全国家電会館

講 師; 山本貢平(小林理学研究所), 押野康夫(日本自動車研究所),
田近輝俊(環境技術研究所), 福島昭則(ニューズ環境設計),
三宅龍雄(総合技術コンサルタント)

受講者数; 45名

オ. 「デジタル信号処理の基礎」(第90回技術講習会)

期 日; 2005年11月10日~11日 会場; 東京電機大学神田キャンパス

講 師; 金田 豊(東京電機大学)

受講者数; 59名

カ. 「超音波診断装置とその周辺技術」(第91回技術講習会)

期 日; 2006年3月3日~4日 会場; 全国家電会館

講 師; 齋藤繁実(東海大学), 児島俊弘(玉川大学), 椎名 毅(筑波大学),
原田烈光(アロカ), 渡辺好章(同志社大学),
梅村晋一郎(京都大学), 望月 剛(アロカ)

受講者数; 22名

(2) サマーセミナー(敬称略)

ア. 「音響学の基礎と最近のトピックス」(第8回サマーセミナー)

期 日; 2005年7月31日~8月2日 会場; 長野県白馬・シエラリゾート

講 師; 荒井隆行(上智大学), 及川靖広(早稲田大学), 大川茂樹(千葉工業大学),
須田宇宙(千葉工業大学), 中村健太郎(東京工業大学),
三井田惇郎(千葉工業大学), 山崎芳男(早稲田大学)

受講者数; 77名

1 2 . 出版事業

音響テクノロジーシリーズ並びに音響入門シリーズの出版を進めた。

1 3 . 学会電子化推進に関する活動

電子化推進委員会（平原達也委員長）において，研究発表会の申し込み，原稿提出で Web の利用を実施する等，学会の電子化について審議検討した。また，Web を利用した各種会員サービス，事務手続きの簡素化等の将来像を検討した。

1 4 . 会勢拡大及び広報に関連する活動

- (1) 会勢拡大委員会（小野隆彦委員長）において，学会活動の周知等について検討した。
- (2) 広報委員会（武田一哉委員長）において，メーリングリストを利用した会員への連絡について検討した。

1 5 . 他学協会等からの共催等依頼

区 分	件 数	摘 要
共 催	1 件	(社)日本機械学会ほか
協 賛	2 9 件	(社)計測自動制御学会ほか
後 援	1 件	(財)小林理学研究所
計	3 1 件	

1 6 . 支部の事業

(1) 関 西 支 部

ア . 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	17. 4.27	大阪市立科学館	出席者 205 名(うち委任状 178) / 定足数 124 名
講演会・見学会	17. 4.27	大阪市立科学館	電波天文学に関する講演会 科学館の説明並びに見学 参加者 27 名
技術講演会	17. 5. 9	NTT コミュニケーション科学基礎研究所	講演 1 件 参加者 18 名 IEEE 関西支部との共催
電気音響研究会	17. 5.19 ~ 20	イーグレひめじ	発表件数 14 件 参加者延べ 79 名
音声研究会	17. 5.26 ~ 27	A T R	発表件数 14 件 参加者延べ 82 名
聴覚研究会	17. 5.27 ~ 28	同志社大学 (田辺)	発表件数 19 件 参加者延べ 99 名
音楽音響研究会	17. 6.18	甲南大学	発表件数 4 件 参加者 13 名
電気音響 / 音楽音響研究会	17. 7.22 ~ 23	TOA XEBEC ホール	発表件数 9 件 参加者延べ 57 名
建築音響研究会	17. 7.28	神戸大学	発表件数 6 件 参加者 25 名
技術講演会	17.10.14	ハービスエント・大阪四季劇場	大阪四季劇場の音響及び舞台設備に関する解説と見学 参加者 3 6 名
動物音響談話会	17.10. 8	同志社大学	招待講演と討論会 参加者 36 名
音楽音響研究会	17.10.29	龍谷大学	発表件数 5 件 参加者 13 名
見学会・講演会	17.11. 2	ソーラーアーク・太陽電池科学館	ソーラーアーク・太陽電池科学館の説明と見学並びに太陽光発電に関する講演会 参加者 22 名
電気関係学会関西支部連合大会	17.11.12 ~ 13	京都大学桂キャンパス	シンポジウム「音源強調 - 雑音や歪みの少ない音声・楽音収集技術 - 」 講演 6 件+パネルディスカッション 一般講演セッション「音響」 講演 18 件

第8回若手交流研究発表会	17.12.15	キャンパスプラザ京都	発表件数 35 件 参加者 89 名
建築音響研究会	18. 1.18	兵庫県立芸術文化センター	発表件数 3 件+見学会 参加者 115 名
ホール音響談話会	18. 1.30	そごう劇場	ホールの建築, 音響に関する講演 2 件と弦楽演奏会並びに見学会 参加者 51 名
音声研究会	18. 1.26 ~ 27	和歌山大学	発表件数 23 件 参加者延べ 81 名
超音波研究会	18. 1.26 ~ 27	同志社大学	発表件数 20 件 参加者延べ 85 名
電気音響研究会	18. 1.26 ~ 27	同志社大学	発表件数 16 件 参加者延べ 74 名
騒音・振動研究会	18. 2.24	大阪府環境情報センター	講演件数 7 件 参加者 43 名

イ．奨励賞

第 8 回若手交流研究発表会における講演で, 32 歳未満の会員の発表を対象として選定した。今回の受賞者は, 5 名であった。

ウ．支部役員及び評議員選挙

平成 18 年 5 月から 1 年間を任期とする支部役員及び評議員の選挙を行い, 次期支部長として渡辺好章氏(同志社大学)が選出された。

(2) 東 北 支 部

ア．総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要(敬称略)
支部総会	17. 5.11	東北大学	
聴覚研究会	17. 4.22	秋田県立大学	
学術講演会	17. 5.11	東北大学工学部	演題「音響空間再現の試み」 講師 安藤彰男 氏(NHK 技研)
音声研究会	17. 6.23 ~ 24	岩手県立大学	
騒音・振動研究会	17. 7.22	東北文化学園大学	
電気音響 / 聴覚研究会	17. 8.18 ~ 19	東北大学	
電気関係学会東北支部 連合大会	17. 8.25 ~ 26	岩手大学	発表件数 346(音響関係 36 件) セッション数 56 件(音響関係 6 セ ッション) 特別講演「奥州平泉と源義経」 講師: 大矢邦宣 氏(平泉郷土館 館長)
超音波研究会	17. 9.29 ~ 30	東北大学	
「言語・脳・認知」シン ポジウム(共催)	17. 9.30	東北大学マルチメディア 教育研究棟	主催: 東北大学 21 世紀 COE プログ ラム(言語認知総合科学)
学術講演会	17.12.20	東北大学工学部	演題「Rayleigh Award を受賞して - 工学の目的を考える -」 講師 中鉢憲賢 氏(東北大名誉 教授)
東北地区若手研究者研究 発表会	18. 2.28	東北文化学園大学	主催: 東北地区若手研究者研究発 表会「音・光・電波とその応用」

イ．東北支部 50 周年記念行事

支部創設 50 周年を記念して以下の事業を実施した。

- ・「音・響・楽の夕べ - 音の科学のお話とオーケストラによる演奏 -
日時: 平成 17 年 9 月 27 日 会場: 東北大学川内記念講堂

- ・東北支部 50 周年記念式典
日時：平成 17 年 9 月 28 日 会場：東北大学マルチメディア教育研究棟
- ・東北支部 50 周年記念講演
日時：平成 17 年 9 月 28 日 会場：東北大学マルチメディア教育研究棟
講師：城戸健一氏(東北大学名誉教授)

(3) 東 海 支 部

ア．総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要(敬称略)
支部総会	17. 4.16	名古屋大学	参加者 10 名
騒音・振動研究会	17. 5.27	名城大学天白キャンパス	講演件数 5 件 参加者 52 名
講演・見学会	17. 5.31	万博長久手会場	「愛地球博における環境面の取り組みについて」 講師 加藤喜一 氏(経産省) 参加者 30 名
東海地区音声関連研究室 M2 発表会	17. 8. 5	静岡大学浜松キャンパス	講演件数 40 件 参加者 151 名
市民セミナー(協賛)	17. 9. 8	東桜会館	「街のにぎわいと都市の景観を考える」 主催：電気学会東海支部 参加者 56 名
電気関係学会東海支部連合大会	17. 9.15 ~ 16	名城大学天白キャンパス	一般講演 637 件(音響部門 14 件) シンポジウム 31 件
音声研究会	17. 9.16 ~ 17	名古屋大学	講演件数 22 件 参加者 延べ 72 名
東海地区騒音振動若手研究会	17.11.12	名城大学天白キャンパス	講演件数 6 件 参加者 56 件
講習会	17.11.22	名城大学天白キャンパス	「道路交通騒音に関する最近の話題」 日本騒音制御工学会共催 参加者 43 名
名古屋大学 COE シンポジウム(後援)	17.12. 6	名古屋大学野依記念学術交流館	「第 3 回社会情報基盤のための音声・映像の知的統合シンポジウム」 名古屋大学情報系 COE 委員会主催 参加者 363 名
専門講習会(協賛)	18. 2. 1	ルブラ王山	「ロボットと IT 技術・ロボットとコミュニケーション」 電子情報通信学会主催 参加者 46 名
市民セミナー(協賛)	18. 2. 7	東桜会館	「森と人との関わり - 新たな社会的価値の創造 - 」 電気学会東海支部主催 参加者 57 名

(4) 九 州 支 部

ア．総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要(敬称略)
支部総会	18. 3.31	九州大学・大橋キャンパス	出席者 81 名(うち委任状提出者 57 名)
聴覚・建築音響研究会	17. 6.17	大分大学	
音声研究会	17. 8.25 ~ 26	九州大学・大橋キャンパス	

電気関係学会九州支部 連合大会	17. 9.29 ~ 30	福岡工業大学	発表総数610件
学生のための研究発表 会	17.10.15	九州大学・大橋キャン パス	
聴覚研究会	17.12. 8 ~ 9	熊本大学	
音楽音響研究会	17.12.11	九州大学・大橋キャン パス	
騒音・振動研究会	17.12.16	九州大学・西新プラザ	
騒音・振動研究会	18. 1.27	琉球大学・千原キャン パス	

イ．学生表彰

九州支部が主催又は共催した研究発表会，研究会における学生の口頭発表を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。今年度の受賞者は3名であった。

ウ．支部役員及び評議員選挙

平成18年4月から2年間を任期とする支部役員及び評議員の選挙を行い，次期支部長として高良富夫氏（琉球大学）が選出された。

17．国際会議等への出席

関連する国際会議等へ出席し，その内容を学会誌に掲載・報告したものは次表のとおりである。

会議名	期間	場 所	会議報告執筆者 (掲載巻号)
IEC/TC29(電気音響)Mississauga 総 会	2005. 5.30 ~ 6. 3	Mississauga (カナダ)	堀内竜三・館野 誠・ 瀧浪弘章・村上 聖 (61巻12号)
ISO/TC43(音響)，同/SC1(騒音)， 同/SC2(建築音響)総会	2005. 6. 5 ~ 10	Mississauga (カナダ)	橘 秀樹・板本守正・ 鈴木陽一・山田一郎・ 吉村純一・桑野園子・ 倉片憲治・佐藤 洋・ 白橋良宏・田中 学・ 君塚郁夫 (61巻12号)